

にし歯科だより



院長

オリンピックが無事
終わり、心配されたコ
ロナ感染拡大が今の所
抑えられて、10月28
日現在では、その理由
ははっきりわかってい
ないものの収束に近づ
いているような数字に
なっています。しかし
まだ第6波がくるか
もしれません。決して
油断することなく
気を引き締めて私た
ちが世界の成功例に
なりたいたいです。



歯科衛生士 白濱

10月になっても夏
日が続いていました
が、やっと秋らしい
日が過ぎせるように
なってきましたね。
コロナ感染者も減少
して1日も早く通常
の生活に戻ってくる
ことを願います。

佐賀市開成2丁目1-13 ☎ (0952) 36-9855

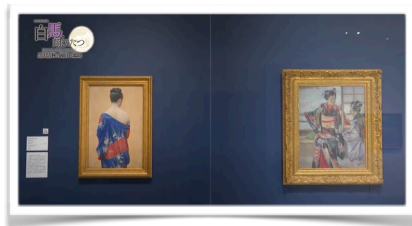


たわわに実った銀杏の実 佐賀県立美術館 中庭の大銀杏の木

白馬、翔びたつ 黒田清輝と岡田三郎助

日本近代洋画の大家 彼らの出会いから新しい美の時代が始まった

この特別展は佐賀県立美術館で9月7日から10月17日まで開催された。恥ずかしながら絵画の知識を持ち合わせない私は、黒田清輝のことも知らず、岡田三郎助のこともつい何年前に知ったという状態であったが、今回の特別展で、展示してあった作品は見たことがあった。幼い頃に母が読んでいた本にこれらの絵が掲載されていたと思う。その頃の女性たちの憧れであったのだろうと、私の記憶でも感じることができた。佐賀出身の日本近代洋画の巨匠岡田三郎助の画業と人物を顕彰する素晴らしい展覧会だと感じた。そして復元された女子洋画研究所もとてもレトロでアートな空間だ。



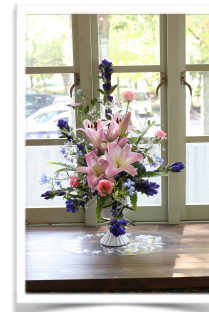
岡田三郎助 あやめの衣 黒田清輝 舞妓



作品「バラ」を再現したアレンジ

岡田三郎助アトリエ 女子洋画研究所

このアトリエは明治41年頃に東京渋谷区恵比寿の自宅に隣接して建築されたものだそうです。当時の洋風建築で、今の時代にはない心豊かな雰囲気を感じることができるデザインです。往年の姿を保ったまま保存されていた国内最古のアトリエを、平成30年に県立美術館横に移設・復元されたもので、いつでも見学することができます。その頃はLGBTなんて言葉は全く意識することなく、ただ普通に女性の美術家の進出を後押しする人々が現れたのだと思います。佐賀県民として岡田も大隈も誇らしい。



今度の作品は大きいので・・・

釣りに行ったついでに集め始めた流木を使って、いろいろなものを作り始めました。第2弾は90cm×90cmの大きいものになりました。ネットを見ていたら、海外の作品にハートマークに流木を敷き詰めたアートを見つけましたので、それを真似たものです。コロナ禍になってDIYに興味を持ち始めた人が多いと聞きますが、私も御多分にはもれず、この作品の枠組みも私が作ったのですよ。^^皆さんの反応は上々ですが、スタッフたちはこれから院長がどのような作品を持ち込むか、ちょっと不安に思っているのかもしれませんが。2番ユニットに座った方は観てみて下さいね。



流木アート 第2弾